

## 2009 年度第 2 回（通算第 11 回）情報知識学会関西西部会研究会案内

### 美術品・文化財の保存修復とデジタル・アーカイビング、複製作成

今回は、平成の経師を名乗る（株）大入のご協力で、美術品・文化財・古書などの保存修復や複製との関係で、デジタル・アーカイビングについて発表いただくとともに、その工程の見学を行う。

#### 記

日 時：2009 年 09 月 26 日（土） 15：15～17：00

会 場：（株）大入 TEL: 075-212-0248

京都市中京区小川通二条上ル樋屋町 611

地下鉄東西線烏丸御池駅下車、2 番出口を上がり、堀川通り方面に歩き、7 本目の通りを右折、二つの交差点を越え、一つの T 字路を越えてまもなく、道の左側（徒歩約 10 数分）

<http://www.ooiri-co.com/>

論 題：美術品・文化財の保存修復とデジタル・アーカイビング、複製作成

発表者：品川晃二氏（大入）

概 要：大入は、美術品・文化財・古書などの保存修復、装幀、複製等を行う会社である。今回は、その中でも、保存修復と複製、および、デジタル・アーカイビングに焦点を当てる。大入では、保存修復の際に、場合によって、その作品の画像データをデジタル・アーカイビングしている。というのは、保存修復の過程で、冊子の一枚一枚のフラットニング作業を行うが、この時、ゆがみのない形になり、この状態でアーカイビングを行えるからであり、また、屏風、襖などのフラットニング作業中であれば、張り込まれたり折り込まれたりして、通常は見えない裂(きれ)の部分をもアーカイビングできるが、このような部分は、本来の色などの情報が保存されていることが多いからである。アーカイビングのためのスキャナーはニューリー製である。ニューリーは本物と見間違うような画像を再現できるスキャナー・メーカーとして有名である。大入では、これによる画像を自身の技術で加工することにより、本物と見間違うような複製を作成している。今回は、大入の品川氏に、保存修復、アーカイビング、複製に関して、見学つきでご発表いただき、その後質疑応答を行う。

共 催：アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

後 援：情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、記録管理学会、全日本博物館学会、日本ミュージアム・マネージメント学会

定 員：15 名（定員になり次第締め切り）

申 込：氏名、所属、連絡先（メールアドレスおよび電話番号）、主催・後援団体の会員の場合はその団体名を明記の上、下記まで、メールか、ファックスか、郵送かで連絡下さい。

田窪直規（関西地区部会長）

Mail: takuboAMmsa.kindai.ac.jp FAX: 06-6728-7546

〒577-8502 東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学 21 号館 725 号室

参加費：主催団体会員 200 円、その他 300 円

\* 研究会終了後、発表者を囲んでの懇親会を予定しておりますので、ご参加下さい。